今週のみことば	「信じるなら、神の栄光を見る」 （ヨブ記４２章１節～６節） 「私はあなたのことを耳で聞いていました。しかし今、私の目があなたを見ました。それで、私は自分を蔑み、悔いています。ちりと灰の中で。」 (42:5,6) （ヨハネの福音書１１章２８節～４４節） 「イエスは彼女に言われた。『信じるなら神の栄光を見る、とあなたに言ったではありませんか。』」(11:40)

今日のメッセージ要旨

◎人生にとって一番しんどいとき、苦しいときとは人間の死に直面したときではないでしょうか？　病老死はひとり一人に関わる問題ではないでしょうか？

◎ヨブ記42章1～6節は、主とヨブとの対話(39:1～42:6)が記され、その最後「ヨブの応答」です。ヨブは神様の全能性と統治能力及び自分の無知を子告白している。それはヨブの積極的な信仰の表明なのです。苦難のただ中での信仰告白(19:25,26)を、ヨブは今、現実のこととして体験しているのです。ヨブは深い感謝と悔い改めを持って主を礼拝したのです。強い苦しみは人の心を歪ませることもありますが、神様の守りと憐れみがあるなら心と信仰を純粋にするのに役立つものともなるのです(マタイ5:8)。神様の愛の迫りに心砕かれた感謝の告白なのです。

◎ヨハネの福音書11章の主題は「死んだラザロを生かす」で①１-16節、ラザロの死、②17-27節、イエスは復活と命、 ③28-37節、イエス、涙を流す、④38-44節、イエス、ラザロを生き返らせる、⑤45-57節、イエスを殺す計画に分解される。

◎「ラザロ」の名の意は「神たすけたもう」で、人々から「あなた（主イエス）が愛しておられる者」(3､36)と言われ、主イエスから「わたしたちの友」とも呼ばれています(11)。マルタ、マリヤ、ラザロは主イエスから愛されている家族で、そのラザロが病気になり(3)、死んだのです(14)。神に愛されていても試練に遭うのです。しかし、すべては「神の栄光のためのもの」であり、「神の子が栄光を受けるため」であるのです(4)。人間の目から見て災いと思えることでも災いで終わるのではないのです。ラザロが死んで４日目に主イエスは到着されたのです。

最初に出迎えたマルタは主イエスに「主よ、もしここにいて下さったなら、私の兄弟は死ななかったでしょうに」と告げ(21)、その後マリヤも同じ事を言っているのです(32)。しかし主イエスは「あなたがたのため、すなわちあなたがたが信じるためには、わたしがその場に居合わせなかったことを喜んでいます」と告げられました(15)。主イエスはマルタに「よみがえりでありいのちである」ご自身を示し、「このことを信じますか」と念を押され(26)、「石を取りのけなさい」と命じられ(39)、「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光をみる、とわたしは言ったではありませんか」と語られたのです(41)。不信仰、不従順の石を取りのけ、主イエスに信頼することが求められているのです。主イエスは「霊の憤りを覚え、心の動揺を感じ」「涙を流され」る御方であり、「心の中に憤りを覚え」られる御方で(34,35,38)、死の支配力に怒り、その現実に立ち向かい、救いの手を伸ばされたのです。主イエス様に信頼し、永遠の命を戴きましょう。

イエス様は、ラザロが病んでいると聞いても、2日も動こうともされず、「助けに来てほしい」との求めにすぐに応えられず、「行くのは危険だ」という弟子たちを説得し(7-16)立ちあがられる。主は事の全体を眺め、ご自分の取るべき道とその時を自ら判断された。神様の導きに完全に服しておられたのです（5,19,30)。

イエス様にとっては、目が見えないことも、死さえも神の栄光に繋がっている。